

# HMEP

Hawaii  
Medical  
Education  
Program

エイチメップ

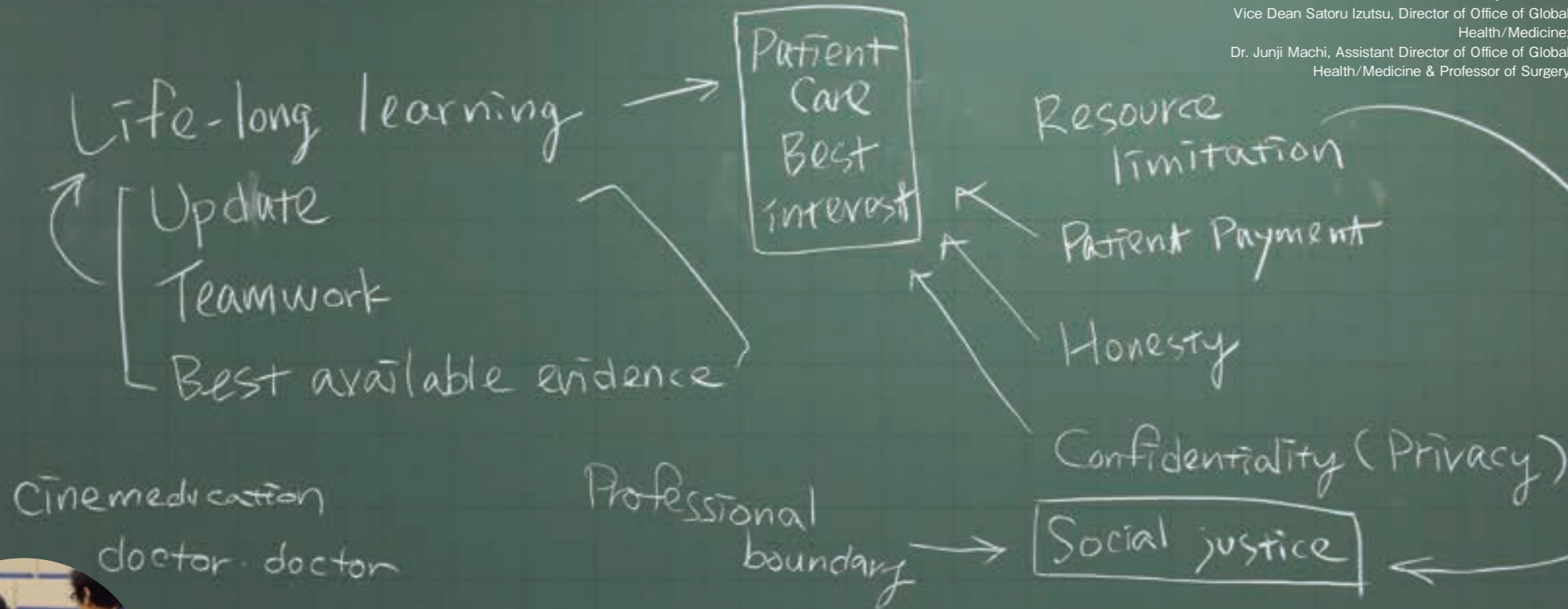
ハワイ大学  
医学部との  
教育連携

## ハワイ医学教育プログラム ステップアップを目指す医学生をサポート

東海大学医学部医学科とハワイ大学医学部がコラボレーションし、日本の医学教育の水準を、世界に通用するレベルへとさらに高めていきたい。そんな熱き思いによって、2016年4月に誕生したのが、エイチメップ 東海大学医学部医学科の「ハワイ医学教育プログラム」(HMEP)です。その趣旨に賛同し、日本全国のみならず世界で活躍する医師や医療関係者が集結し、さまざまなテーマで展開するプログラムは、日本初の取り組みとして注目されています。さらに、本プログラム参加者には、ハワイ大学医学部の協力のもと4~6年次の間にアメリカ式臨床実習を受けられる環境を用意し(※)、卒業時点でアメリカの医師国家試験をパスできるスキルを身につけられるよう指導します。(※参加者の中から選抜し、10~20名の枠を予定)



※徳田安春氏(JCHO 本部総合診療顧問)のHMEP 講義「プロフェッショナルリズム」の板書から



ハワイ大学医学部のリーダー

右から、Dean Jerris Hedges, John A. Burns School of Medicine, University of Hawaii; Vice Dean Satoru Izutsu, Director of Office of Global Health/Medicine; Dr. Junji Machi, Assistant Director of Office of Global Health/Medicine & Professor of Surgery



ハワイ大学医学部  
(John A. Burns School of Medicine, University of Hawaii)



医師としてキャリアを積むために学生の時だからこそできる学びや、すべきことがわかった。ぜひ、留学したい!

医師として目指すべき指針を考えさせられる講義の数々。日本で、そして世界で活躍する講師陣からの熱いメッセージに感動した。

医学英語は、習得することが目的ではない。実際に、臨床の場で必要不可欠な要素なのだ実感!

さまざまな出会いやコミュニケーションが、医師としての成長、そして飛躍を促進させる要素。自ら学ぶ機会を、さらに求めていきたい。

英語は得意で、積極的にTOEFLやOPICも受けてきたが、それだけでは不十分だと感じた。もっと生きた英語に触れる機会を持ち、英語力を磨いて、将来は海外のチーム医療に参加したい!

### 参加した学生たちからの感想コメント(抜粋)



### 国・大学・領域の垣根を越えて集結した講師陣(2016年度実績 ※開講順・敬称略)

町淳二(ハワイ大学・外科・国際医療オフィス)、矢野晴美(筑波大学医学医療系・水戸協同病院)、青木真(感染症コンサルタント)、香坂俊(慶應義塾大学・循環器内科)、山内裕雄(順天堂大学・名誉教授)、樋口雅也(南イリノイ大学・家庭医療)、古川俊治(慶應義塾大学・参議院議員)、下枝三知与(コミュニケーションサポートチーム代表)、吉川直人(東海大学・副学長・グローバル推進本部長)、角野嘉春(ワシントン大学・呼吸器集中治療)、押味貴之(日本大学 医学教育企画・推進室)、岩田健太郎(神戸大学・感染症学)、黒川清(政策研究大学院大学)、蒲章則(群馬大学・未来先端研究機構 WHO 協力センター)、高柳友子(社会福祉法人 日本介助犬協会専務理事)、渡邊美穂(シンシナティ小児病院・小児外科)、徳田安春(JCHO本部総合診療顧問)、小林恵一(ハワイ・内科専門医/医療者育成)、岸田明博(聖路加国際病院・消化器・一般外科部長)、鈴木光明(ハワイ大学・医学教育・小児科)、林寛之(福井大学・総合診療部長)、藤谷茂樹(聖マリアンナ医科大学・総合診療内科)、志賀隆(東京ベイ浦安・市川医療センター・救急科)、山高篤行(順天堂大学・小児外科・小児泌尿生殖器外科)、ジョエル・ブランチ(湘南鎌倉総合病院・内科医学教育・シミュレーションセンター長)、ゴータム・デシュバンデ(聖路加国際病院)、アラン・レフォー(自治医科大学・外科)、スミス睦子・永野京子(患者・家族)、Team Medics